

2021年6月24日発行

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラム vol. 102 「COVID-19 が健康意識を高めるきっかけに？」 三浦 佳代 (埼玉医科大学)

1) 学会からのお知らせ (<http://jahp.wdc-jp.com/>)

■日本健康心理学会第34回大会のご案内 (第34回大会事務局より)
日本健康心理学会第34回大会 (開催準備: お茶の水女子大学, 準備委員長: 大森美香) は新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し, 2021年11月15日 (月) ~21日 (日) の会期でオンライン開催とすることといたしました。
7月初旬に, 第1号通信の発送および大会ホームページの開設をいたします。詳しくはそちらをご参照ください。
多くの皆様のご参加および研究発表の申込をお待ちしております。

■2021年度アーリーキャリアヘルスサイコロジスト賞の応募開始について (国際委員会より)
本賞は, 健康心理学の国際学会での優れた発表に授与されます。2021年度はバーチャル大会も対象となります。
また, 特例として, 英語による論文・著書・分担執筆など第一著者としての掲載も対象としています。詳細は, 以下をご覧ください。
https://kenkoshimi.jp/pdf/2021_helth_2.pdf

2) 健康心理学コラム Vol. 102

「COVID-19 が健康意識を高めるきっかけに？」
三浦 佳代 (埼玉医科大学)

私は, これまで, 地域在住高齢者の身体活動量増加, 脳卒中者の社会的活動への参加を目的とした介入を行ってきました。しかしながら, 介入できるのは, 健康行動に関心があつて, 健康教室や体力測定会に参加してくる人です。一番介入が必要であると思われる健康意識の低い層にはなかなか介入できずいます。健康意識の低い層をいかにして介入に取り込むかは, 健康行動変容の課題であると思います。
健康意識について論文を探していたところ, 興味深い報告があつたので紹介します。Tyson et al. (2021) による, 英国の喘息患者を対象とした調査では, COVID-19 感染拡大時に, COVID-19 に脆弱 (vulnerable) であるとグルーピングされたことで, 疾病管理や健康に対する意識が高まったとのこと。さらに, 感染拡大前に活動的でなかった者の中には, 意識的に活動量を増加させ, 精神的・身体的な恩恵を得た者もいたそうです。
2020年4月の緊急事態宣言以降, 自粛生活による身体活動量の減少, 人とのつながりの希薄化など, COVID-19 による悪い影響ばかりに着目していました。しかし, 今回この論文を読んで, 介入方法を検討すれば, COVID-19 の感染拡大は, 地域在住高齢者や脳卒中者のうち, 今まで健康意識が低かった層を介入に取り込むチャンスとして捉えることができるのかもしれないと思いはじめました。

引用文献

Tyson, L., Hardeman, W. Stratton., G. Wilson., M. A., Semlyen, J. (2021). The effects of social distancing and self-isolation during the COVID-19 pandemic on adults diagnosed with asthma: A qualitative study. Journal of Health Psychology, 1-13.

日本健康心理学会広報委員会
<http://jahp-public.blogspot.jp/>
メールマガジンの配信停止, アドレス変更は下記アドレスまで
日本健康心理学会事務局 <jahp@pac.ne.jp>
メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで
広報委員会 <jahp@pac.ne.jp>
過去のメールマガジンは, こちらからご覧いただけます
<https://kenkoshinri.jp/health/health1.html#mailmaglist>